

創立 1980年10月8日



ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0024 堺市堺区向陵中町2丁5-10 杉本ビル5-B・Tel:(072)255-1200 番

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 PANTARON Tel:(072)228-3988 番 (魚太郎直通電話)

URL : <http://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : snrc@jasmine.ocn.ne.jp

ガバナー(第2640地区) 辻 秀和(ツジ ヒデカズ)

ガバナー事務所 URL : <http://www.rid2640g.org/tsuji/>

E-mail : tsuji2014-d2640@ivy.ocn.ne.jp

会長:山ノ内修一 幹事:塩見 守 広報委員長:坂田兼則 編集者:藤永 誉

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

本日の例会

2015年5月8日(金)第1660回

卓話 「近況エコロジーについて」

卓話者 山崎 市郎 会員

今週の歌 「君が代」「奉仕の理想」

「バースデーソング」

お客様の紹介

出席報告 会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○会員・奥様誕生祝い(5月度)

坂田多英様(2日)

○結婚記念祝い(5月度)

新井茂文会員(2日) 城岡陽志会員(2日)

畑中一辰会員(2日) 濱口正義会員(15日)

前回の例会

2015年4月24日(金)第1659回

卓話 「テーブル会議」

議題 地区状況について

今週の歌 「奉仕の理想」

「故郷(ふるさと)」

お客様の紹介

出席報告 会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

<4月24日(金)の出席報告>

会員数 32名

出席会員 21名

欠席会員 11名

ビジター 0名

ゲスト 0名

3月20日(金)の出席率 78.13%

次回の例会

2015年5月15日(金)第1661回

卓話 「未定」

卓話者 池永 隆昭 会員



2014-15年度 国際ロータリーのテーマ

「ロータリーに輝きを」

Light Up Rotary

国際ロータリー会長 ゲイリーC.K.ホアン(台湾・台北RC)

卓 話

「テーブル会議 ～地区状況について～」

議事録 塩見 守

最近の地区の状況をご存じ無い会員の方が多いと思いますので、これをテーマとしてテーブル会議を行いたいと思います。今年も地区を正常化する会の会議が何度も行われました。山ノ内会長と坂田会長エレクトに出席して頂いていましたので、今回は坂田会長エレクトに進行してもらいたいと思います。まず次年度地区予算の決議に際して、豊澤ガバナーエレクトが強引な採決を行いました。これはおかしいということで正常化する会とガバナーエレクトとの間で問題になっています。この他にもいろいろありますが、この件が今は一番大きな問題だと思えます。このような地区との関係でいいのでしょうか？堺北RCからも地区運営に大きく関わって下さっている会員さんがおられます。澤井会員と藤永会員は地区青少年ライラ委員会で活躍して頂いていますが、本年度は地区予算がなかなか通らない状況でしたので、毎年行われている地区青少年ライラセミナーも開催できるかどうか分からないといった状態でした。それでも何とか開催するために大変な苦勞をされました。又小西会員は地区米山奨学委員会で活躍して頂いております。このように地区との問題が正常化しないと地区運営に携わっている会員の皆様にご迷惑を掛けてしまいます。堺北RCとしては早く本来の関係に戻ってほしいと考えていますので、これからも正常化する会と連携しながら進めて行きたいと思えます。地区は地区という意見もございませう。自分のクラブ内において「仲良く・楽しく」でいいのではとの声もありました。会員の皆様一人一人の思いや意見がございませうので、これからも地区状況についての発信をして行きたいと思えます。最後に山ノ内会長から地区はなぜ「仲良く・楽しく」できないのか、簡単な事だと思いう言葉でテーブル会議は終了しました。

会長の時間

「しみじみ話」

会長 山ノ内修一



今日歌った「ふるさと」は私の大好きな歌の一つです。歌うと実にしみじみとした気分になります。田舎出の身には特に切々としたものを感じます。

で、今日はしみじみとした話を一つ。先日、風呂上りの家内が「お父さん、シップ貼ってくれる？」と言うので「ハイハイ！」と引き受けました。左右の肩甲骨あたりに2枚張りました。貼りながら「少し、老けたな」と思いました（苦勞かけているから・・・）。久しぶりに川柳が思い浮かびました・・・「妻の背に 歳月想い シップ貼る」。

相方がいて良かったなと思うのはこんなときですね。自分で貼れないところを貼ってもらおう。自分で搔けないところを搔いてもらおう・・・。お互い元気な間はいいけれど一人になったらどうしよう。

最近「自撮り」とかかって、スマホを棒の先につけて自分で自分を撮っている光景を良く見ます。「自撮り」の道具があるならシブの「自貼り機」があっても良さそう。高齢化社会の中で一人暮らしの人も多いはず。「自貼り機」に限らず、「一人で・・・できる」というものを開発されれば儲かるだろうとふと思った幸いです。

委員会報告

親睦活動委員会

親睦活動委員長 徳田 稔

「最終例会の内容等の打合せ」



5月1日(金)新鮮鳥焼き専門店「旬鶏(堺店)」で最終例会の打合せを開催しました。例会場所は、ホテルアゴーラリージェンシー堺で6月20日、5時30分開催で決定。アトラクションは奥野会員に一任。

役割分担も重要な部門は、各会員さんにお問い合わせ済みです。

最終例会を盛り上げる為に皆様の御協力を宜しくお願いいたします。

参加者 山ノ内会長・塩見幹事・木畑SAA・坂田会員・奥野会員・中川会員・藤永会員・笹山会員・畑中会員・池永会員・中田会員。

S A A 報告

山ノ内修一会員 坂田さん、先日は決議会の件で、有難うございました。助かりました。
塩見 守会員 先週は寝込んでしまい例会を欠席してすみませんでした。藤永さん有難うございました。中川さんお世話になりました。

計 3,000円

幹事報告

(1)配布物 週報

(2)他クラブ例会変更のご案内

・堺フラワーロータリークラブ

5月16日(土) → 同日11:30～「ランチ例会」

於：ホテルアゴーラリージェンシー1F「ザ・ループ」

5月23日(土) → 同日10:30～「ボウリング大会」

於：ラウンドワン堺駅前店

・堺東南ロータリークラブ

5月21日(木) → 5月24日(日)AM9時～「植栽奉仕活動」

於：北野田駅前ロータリー花壇

タイ米山学友会総会報告 – 創立3周年を迎えて

3月15日、タイ米山学友会がバンコク市内で総会を開催しました。学友・来賓の計28人が集まり、創立3周年を祝いました。

同学友会ではこの3年間、定期的な理事会の開催のほか、児童養護施設の子どもたちへの支援活動や海岸清掃（エコキャンプ）、経済的に困窮する大学生への奨学金支給など、さまざまな奉仕活動を行ってきました。現在の会員数は、創立時から少し増えて40人。学友同士の親睦活動や、タイや日本のロータリークラブとの交流も盛んです。総会では今後の活動として、大学生への奨学金支給に代えて、貧しい地域の小学生への奨学金支給や、HIV/AIDSに感染した子どもたちのための児童養護施設への支援を行うことなどが報告されました。

総会後の懇親会には、学友会創立に多大な尽力をしたピチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長が激励に駆けつけました。当会の小沢一彦理事長も総会・懇親会と出席し、タイ学友との交流を深めました。



ハイライト米山181 より抜粋。

子どもたちにハートを届けるエクアドルの外科医

エクアドルのロータリー会員で小児心臓外科医のヘラルド・ダバロスさんが、2012年に心臓手術を執刀する様子。

ロータリー財団からのマッチング・グラントで、子どもたちへの心臓手術が実現しました。



エクアドルのロータリー会員で、小児心臓外科医のヘラルド・ダバロスさん。これまでに多くの幼い患者を診察してきましたが、中でも1人の少年が強く心に残っているといいます。

それは11歳の少年、ジョスエ・オチョア君です。

2013年、少年が亡くなる日の前日、ダバロスさんはオチョア君の病室を訪ねました。家族が集まり、大きな悲しみに包まれる中、唯一、笑顔を絶やさず皆をなぐさめていたのが、患者本人のジョスエ君でした。

ダバロスさんは振り返ります。「あのとき、ジョスエ君がどんなに強く生きていたかを今でも忘れません。自分のことより、お父さんやお母さんのことを心配していました。『大丈夫だよ。ぼくは素晴らしい人生を生きることができた』と繰り返し話していました。心の優しいとてもいい子でした」

ジョスエ君は「学校でダンスする機会を与えてくれてありがとう」と言い、医師であるダバロスさんへの感謝も忘れていませんでした。

ダバロスさんが、ロータリー財団の補助金を受けて、恵まれない子どもたちに心臓手術を行ったのは、それより5年前のことでした。手術を受けた患者の1人がジョスエ君です。

確実に回復できるよう、術後は2カ月の入院が義務づけられていました。それでもジョスエ君は一度も不満を漏らすことなく常に笑顔だった、とダバロスさん。「早く退院して一日も早くダンスできる日を待ち望んでいました」

悔しくも、ジョスエ君の心臓は悪化の一途を辿るばかりでした。「ロータリーの支援のおかげで手術を受け、ジョスエ君は元気な子どもと少しでも同じ経験をする時間を得られました」

ジョスエ君に加え、ダバロスさんが無料で心臓手術を行った患者は120人以上。これは、2002年に始まったロータリー補助金プロジェクトとして、米国イリノイ州のロータリークラブとの協力で実現しました。

ロータリーを通じてアイデアを現実に

ダバロスさんは1995年までの5年間、スペインで研修医として働きました。エクアドルに帰国後は、病院勤務に加え、恵まれない子どもたちのために自分のスキルを活かしたいと考えていました。

「エクアドルには助けを必要とする人が大勢います。政府には、貧しい子どもに手術を提供できるほどの資金がなく、心臓病を患う子どもたちの選択肢は限られています。自分のスキルを使って、何とか子どもたちに無料で心臓手術を提供できないかと考えていたのです」

そんなとき友人から紹介されて知ったのが、ロータリークラブです。何度か例会に出席した後、1998年に正式にクラブへ入会しました。

「実にさまざまな職種・職業の会員が集まっていることに驚きました。病気の子どもたちを助けるために、最初は何かから手をつけてよいかわかりませんでした。しかし、経験豊富なロータリアンが心強いサポートとアドバイスを提供してくれました。彼らも、恵まれない人びとを助けたいと願う気持ちは同じだったのです」

ダバロスさんのビジョンを実現させるため、複数のクラブが協力して資金を確保し、60以上の手術が実施されました。

「恵まれた境遇の人も、そうでない人もいます。自分ができる限り、社会のためにできることを実践しなければなりません。私はロータリーを通じて、支援に進んで手を貸してくれる仲間に出会うことができました。今は、スキルを活かして人びとのために活動できることをとても嬉しく思います。また、実際は、自分がしてあげられることよりもっと大きな“喜び”を子どもたちからもらっているように思います」。そんな大きな励ましを与えてくれた1人が、ジョスエ君でした。